

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:平成 31 年 3 月 18 日

		チェック項目	はい	どちらともいえない	いいえ	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	3	3	2	より多くのプライバシールームを必要としている生徒もいる。生活訓練と放デイを一緒にやっているが離す予定。現在は、パテーションなどで個人スペースの確保をしている。
	2	職員の配置数は適切である	2	3	3	児童がどこにいても常にスタッフがその場に居るよう配置するようにしている。一日の利用定員の調整を行っている。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	6	2	0	段差のある場所にスロープを設置し、屋内は段差はなく、多目的トイレを設置。玄関の段差があるので、手作りのスロープを置いている。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	4	3	1	目標設定(時に過多な)はするが振り返りの時間がない。業務整理等を不定期にしている。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	2	2	4	アンケート調査は行っていないが、その都度ご意見があった時には対応している。今後、アンケート調査も活用していきたい。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	0	1	7	ブラックボックス化しているため公開予定と聞いている。
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	1	2	5	今後行い改善に繋げたい。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	7	1	0	会社から提示された研修だけでなく、ネットや広告を見て自発的に受講するなどしている。県外の研修への参加もおこなっている。
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	4	4	0	定期的なモニタリングの実施を行っている。
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	2	5	1	標準化されたツールは事業所独自のものを使用している。
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	7	1	0	定期的にプログラムのミーティングを行っている。小学校高学年が低学年の児童の好みなど話しあい、立案、どうなったか等振り返りもする。
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	8	0	0	新しいことをする際に備品の購入や、ネットや本などを調べ活動を行っている。毎月抜本的な変更を行うための会議をしている。また、外部講師を活用し、プログラムが固定化しないように工夫している。
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	4	3	1	休日や長期休暇にしかできない、屋外活動を多く取り入れている。
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	7	1	0	日々個人の取り組みたい活動を選んでもらっている。
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	6	0	2	毎朝必ず職員ミーティングを行っている。
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	6	0	2	送迎などの関係により職員が集まることができないが、参加できるスタッフで、気になった点など話す時間を設けている。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	5	1	2	記録は各自記入してもらっており、またチャットで職員間で共有されている。
18	定期的なモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	6	1	1	モニタリングは定期的に行われ、適宜見直されている	
19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ支援を行っている	2	5	1		

関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	6	1	1	配置やカリキュラムに適正な人材を探している	
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	7	0	1	学校配信のメールに登録しており、随時連絡がくるようになっている。 通信制高校のレポートのチェック状況等担任の先生と連絡をとっている。	
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	/				受け入れをしていない。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定子ども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	2	3	3	利用前に面談を行い、情報共有を行っている。	
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	5	2	1	小学校卒業前に学校を含めモニタリングを開催している。	
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	1	3	4	今後、参加する機会を多く設けていきたい。	
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	1	2	5	児童館で開催されているお祭りへ参加するなど、休日や長期休暇に外出をする機会を多く設けている。	
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	1	3	4	今後、参加する機会を多く設けていきたい。	
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	6	1	1	送迎の際やお迎えに来てもらった際に活動内容の報告、この場でこういった行動ができた、伝え方を変えることができたなど、直接会えない場合でもLINEで伝えるなどしている。	
29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	1	1	6	市町村等で開催されている講座への案内を行っている。		
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	6	1	1	説明は契約時に一括ですましているが、支援の内容はモニタリング時や送迎など保護者に津たることを行っている。	
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	5	2	1	送迎、お迎えの際や、直接会えない場合に電話でのやり取り、個別に時間を作ったり等話す時間を設ける等している。必要に応じて関係機関とも連携を行っている。 保護者等との連携を強化していきたい。	
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	4	1	3	数ヶ月に1度の家族会を開催している。	
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	5	3	0	苦情があった際には、できるだけ迅速に対応している。	
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	2	0	6	会報誌などの発行はないが、送迎時などに保護者へ直接情報があればお伝えしている。	
	35	個人情報に十分注意している	7	1	0	事務所の出入り口の制限や、ファイル等はカギ付き棚へ収納している。	
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	7	1	0	LINE等連絡の取りやすいツールの使用。	
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	3	1	4	多くのイベントで開催しており、お客さんは基本的に地域の人である。	

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	2	4	2	周知が足りていないので、今後周知をしていく。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	6	1	1	毎年2回行われている。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	7	1	0	研修は毎月行われている。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	3	4	1	契約時に身体拘束についての説明を行い、やむを得ず行った場合には、必ず、保護者への状況説明、記録を残している。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	3	4	1	アレルギーの有無のチェックを行っている。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	2	2	4	その都度、職員で話し合い対策・対応を行っているが、今後、事例集のファイルを作る必要がある。